

# 新井中央小だより

No. 298

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>メールアドレス [chuou@ac.city.myoko.niigata.jp](mailto:chuou@ac.city.myoko.niigata.jp)

2024 (令和6)年10月28日

## 尊重すること

先週、6年生の修学旅行の引率をしました。見学地、バスの中、宿泊先でも、子どもたちはよくまとまって行動していました。仲間同士関わり合って、助け合いながらみんなで一つの目標に向かって明るく活動しました。その行動の根底にある「自分や人を尊重する心」を感じることができました。私は、この「自分や人を尊重すること」が、いかに子どもたちの成長にとって必要かを再確認できました。

この半年間、人権教育、同和教育を中核とした教育活動を展開してきましたが、外部講師等からお聞きした心に響くお話の多くが、この「尊重すること」に関わっています。

夏季休業中に、職員研修として「体験活動を通じた仲間作り研修会」を行いました。国立妙高青少年自然の家の活動「妙高アドベンチャー」の外部講師から、仲間作りの手法を学びました。その講師が、「人を尊重し大切にするには、まず自分を尊重し大切にすることです。自分を大切にできなければ人を尊重できません。自分や人を決めつけていませんか。今の自分や仲間は昨日までの自分や仲間と違います。新しい自分、新たな仲間の良さを見付け、そんな自分や仲間を尊重してほしいです。」とおっしゃっていました。この言葉から、私たち大人も考えるべきことがあります。人に対する望ましい関わり方を求めることを重視し、自分の良さを認識させること、自分を尊重させることを十分に行っているでしょうか。今まで子どもたちの姿にとらわれ、決めつけて見てしまい、変わろうとする機会や意欲を奪っていないでしょうか。決めつけを無くし、「新しい自分の発見、新しい仲間のよさの発見」を学校生活や家庭生活の中で行うことが必要です。

また、1学期には、スクールロイヤーの方を講師に迎え、「いじめ予防に関する講演会」を行いました。その講師の先生からは「全ての人と仲良くすることはなかなか難しいですが、例えその人と話ができなくても心の中で尊重することが必要です。」というお話をお聞きしました。友達は尊い存在であることを日々の生活の中で、短い時間の中でも思い巡らせることができるようにすることです。そのために、周囲の大人が思い巡らせる時間を作ったり、思い巡らすような活動を意図的に考え、実行したりすることが必要です。

先日、3年生と5年生、両学年の保護者の皆様を対象に、情報学習会を開催しました。上越教育大学の教授を講師にお招きし、「メディアとの付き合い方を考えよう」をテーマにお話をいただきました。詳細は、4ページを読んでいただきたいのですが、講師の先生のお話の中に、「メディアの利用」の意図がありました。ゲームやテレビもそうですが、「リラックスやストレス解消」に役立つとのこと。教育上のメディア利用の意図として「メディアは、自分を高めるため、周囲の人を幸せにするために利用することです。」とお話されていました。根底に「自分を高めるため、人を幸せにするため」ということを、子どもたちにしっかりと認識させて、メディア利用に臨めば、メディア利用のやりすぎによる弊害（日常生活に支障を来す依存症、目や睡眠不足などの健康障害）やネット上のいじめや差別などに陥らないのかもしれない。

以上のように、子どもたちの健やかな成長のために、「自分を尊重すること、人を尊重すること」は重要です。当校の職員には、「子どもたち一人一人を尊重してください。」と春から伝えていきます。ご家庭でも、地域でも、短い時間でもいいですから、「自分は尊いこと、家族や地域の方も尊い存在であること」を話題にしていきたいです。そして、そのために、決めつけをせず「新しい自分を発見させていく」ことを試みていただくとありがたいです。

冒頭に記した6年生の修学旅行での姿は、人権教育、同和教育の学習を6年間積み重ねた最高学年の成果ととらえます。これからも、学んだことが日常生活につながるように、そして成長につながるように、学校、家庭、地域が連携して、子どもたち一人一人に対する働き掛けや温かな見守りを継続していきましょう。



6学年修学旅行 10月24～25日

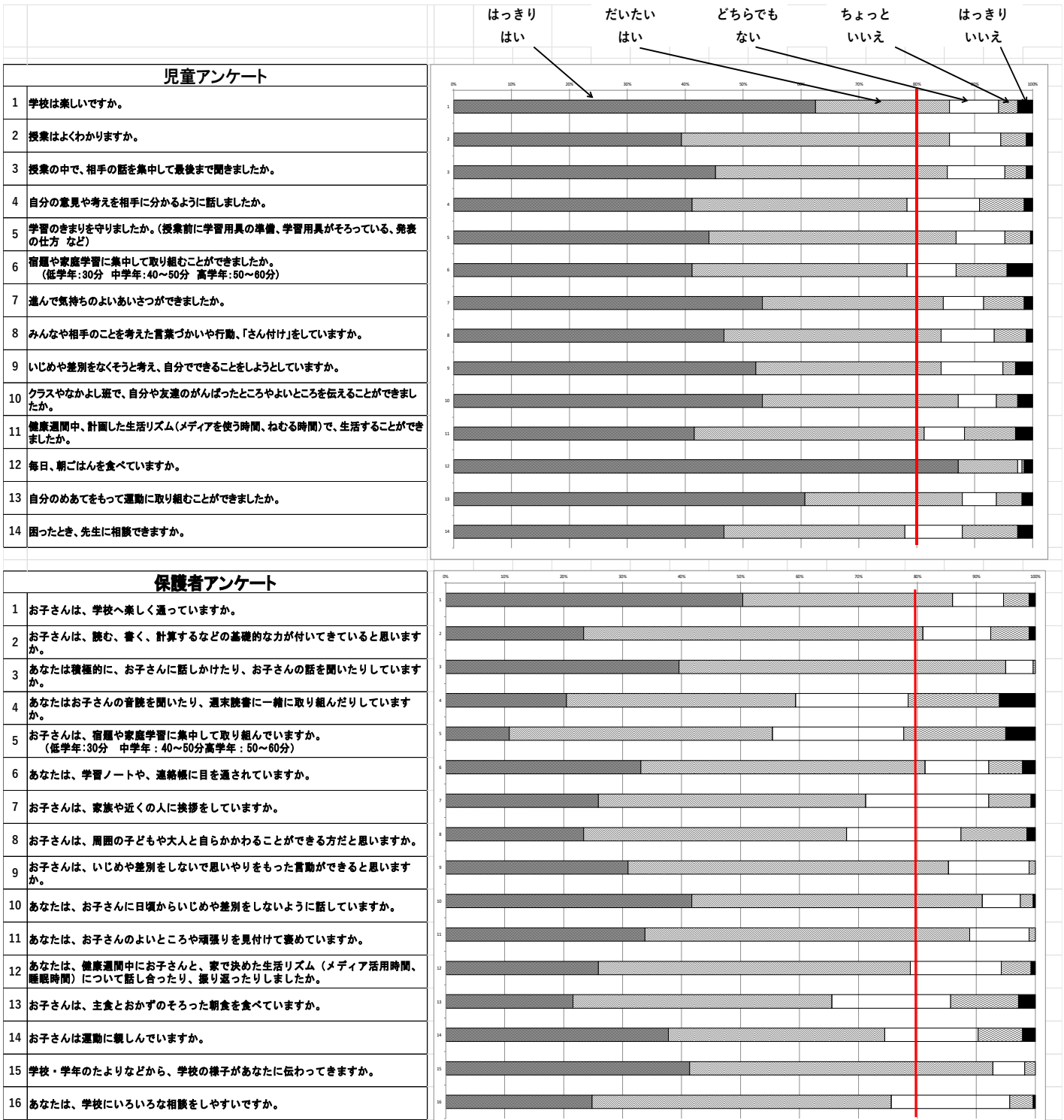
# 前期の学校評価について

前期の学校評価につきまして、保護者の皆様からアンケートのご協力いただき、ありがとうございました。アンケートでいただいたご要望の回答については、前回の学校日よりお伝えしたとおりです。年度の重点目標の達成状況と教職員の自己評価については、以下に記載したグラフと表をご覧ください。7月末現在の実態です。

児童アンケートでは「自分の考えや意見を相手に分かように話す」「進んで気持ちのよいあいさつができる」「困ったときに先生に相談できる」の肯定的評価が80%に達成していないので、2学期以降改善できるよう取り組んでいます。また、「学校は楽しい」「勉強がよく分かる」で、「いいえ」と答えるお子さんがいます。一人一人の児童に目を配り、教育活動、学び方、仲間との関わり方を振り返り、改善すべきことを改善したり、個に応じた適切な支援をしたりしてまいります。

学校評価は後期にも実施しますが、年度の途中でもご意見やご要望があれば承り、改善していくつもりですので、教えてくださいますよう、よろしく願いいたします。

令和6年度 年度の重点目標の達成について（前期） 4月～7月 \* 7月末現在



目指す子ども像	評価項目	評価の観点・方法	肯定的評価
<心づくり> たがいのよさや違いを認め、思いやりの心をもってかかわる子ども	自分や友達の良いところを見付け、伝える。	児童、保護者アンケートでの肯定的評価	児童 87.1% 保護者 88.8%
		ねらいを明確にし、活動することで、班での振り返りを話し合いやカードを活用して、効果的に行えるように働きかけた。	教職員 100.0%
		学級・学年活動、学校行事などに振り返りの場において、自学級の児童が自分の良いところを見付けたり伝えたりすることができた。	教職員 89.4%
	いじめや差別について考え、自分にできることをしようとする。	児童、保護者アンケートでの肯定的評価	児童 84.1% 保護者 88.1%
		「なかま」の時間や道徳において計画に基づいた確実な実践を行い、学年便りなどで取組の様子を紹介した。	教職員 92.8%
		児童が学んだことを生かし、いじめや差別に気付き、自分でできることを実践した。	教職員 86.3%
<学びづくり> 粘り強く課題に取り組み、学ぶ楽しさを見出す子ども	文書や資料、相手の発言の意図を正しく捉え、自分の思いや考えの根拠を明確にして表現する。	児童アンケートでの肯定的評価	児童 82.6%
		読解力育成を意識した授業づくりをしている。	教職員 100.0%
		自分の思いや考えの根拠を明確にして言葉で表現する活動を取り入れた。	教職員 95.4%
<体づくり> たくましく生きるために健康と体力を自ら高めようとする子ども	学年に合った睡眠時間を守り、規則的な生活リズムで生活する。	児童、保護者アンケートでの肯定的評価	児童 81.2% 保護者 78.8%
		自分で計画した生活リズムで生活することができるように指導した。	教職員 100.0%
	めあてをもち、進んで運動する。	児童、保護者アンケートでの肯定的評価 （児童13、保護者14）	児童 87.9% 保護者 74.3%
		授業や教育活動において、子どもがめあてをもって取り組めるよう、授業を行った。	教職員 100.0%
		授業や体育的活動において、児童がめあてに向かって運動することができた。	教職員 94.4%

## 大運動会、子どもたちの成長を実感！ 地域の皆様へ感謝

10月12日、さわやかな秋晴れのもと、大運動会を開催しました。当日は、朝早くから大勢のご家族の皆様、地域の皆様から応援に来ていただき、子どもたちも励みになりました。また、PTA役員・保護者の皆様には、運動会の役員の仕事や準備・後片付けにもご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

コロナ禍により、縮小されてきましたが、今年度は開会式も身近で観ていただきました。赤組、白組ともに応援団長のリーダーシップのもと応援し、一人一人が種目の中で最後まで全力を出し切りました。子どもたちの成長を実感できた大運動会でした。



大運動会 応援団長による選手宣誓

## 市親善陸上大会、科学研究発表会など、学校を超えた大きな場での活躍

学校を超えた大きな場での活動にも、子どもたちは意欲的に取り組んでいます。5、6年生が参加した市親善陸上大会では、各自がめあてを設定し、大会当日は、個人種目、リレーともに全力を尽くし、多くの児童がめあてを達成させました。体育授業、課外活動、また自主的に他の時間を使って熱心に練習する姿も印象的でした。

科学研究や理科作品にも、夏休み中多くの児童が挑戦しました。市の理科作品展には、新井中央小学校から多くの理科作品が出展されました。また、自然環境保護や動物愛護など各自の思いが込められた力作ばかりでした。教育長賞をいただいた作品もありました。市の科学研究発表会では、6名の児童が発表に臨みました。参加した児童の姿から自然事象に対する興味関心の高さ、粘り強い観察や実験、分かりやすい発表の仕方等、取り組んだことによる成果が感じ取られました。また、追実験や昨年度からの継続研究も見られました。失敗しても簡単にあきらめず継続することの大切さがわかったようです。5年生の児童が、「たまごのしくみ～カラをむきやすくするには～」の研究で、県の「いきいきわくわく科学賞」を受賞しました。